

自分の言葉に嘘はつくまい、

人を裏切るまい

かつて、アリスというフォークグループがありました。アリスは、デビューしてからの下積みが長かったグループです。1972年にデビューしますが、ヒット曲に恵まれず、長い低迷期間を過ごしたそうです。



アリスのメンバーは自分たちを知ってもらうためには、自分たちが全国を回るしかない、と、ライブ巡業を行う毎日。ギターの谷村新司さんと堀内孝雄さんは楽器を背負えますが、ドラムの矢沢透

さんは楽器を運ぶのは困難なため、電車移動なども出来るように、ドラムを軽量化したコンガに変更したこともあったそうです。

こうして、街から街へと渡り歩く日々が始まりました。知名度をあげるためにノーギャラのライブにも飛び込み、ほぼ毎日がライブ。1974年には、年間303ステージという記録が残っているほどです。

そんなツアーの中で生まれたのが「遠くで汽笛を聞きながら」(1976年9月20日リリース)という曲でした。

堀内さんの作った曲に、谷村さんが歌詞をつけたのですが、堀内さんは、何度も書き直しをお願いしました。冒頭の「悩み続けた日々」というフレーズを生かし、自分たちの置かれている状況や心の叫びを書いてほしいと頼んだそうです。

そして出来たのが、「ここまで、何もいい事がなかったけど、やめずに、音楽の世界に踏みとどまろう。そして、自分の言葉に嘘はつくまい、人を裏切るまい」という正に決意を歌った曲だったのです。

その後、ライブで歌い続ける事でこの曲への評価が高まり、1976年9月にアルバムからのシングルカットとなりました。しかし、メンバーの期待とは裏腹に、チャートは51位止まりでした。

それでも、自分たちにとっては大切な曲と、コンサートで必ず歌い続けた事で、いつしかアリスを代表する曲になりました。アリスがこの曲を紅白歌合戦で歌ったのは、リリースから29年後の2005年の事でした。

【私の思いは若い頃と変わらず】

私も若い頃バンドを組み、アリスのコピーをしていました。もちろん自分たちのテーマソングも「遠くで汽笛を聞きながら」でした。考え方に共鳴したからです。

そして、この歌が今では自分の人生のテーマソングとなりました。いくつ



【リードギター担当の私(当時25歳)】

になっても、還暦を迎えても現実から逃げず進まねばならない。選択肢は用意しても周囲のみんなの幸せを願う選択をする。と自分に言い聞かせて頑張ってきました。

「自分の言葉に嘘はつくまい、人を裏切るまい」この言葉にあこが

れてひたすら・・・追い求めて・・・今を生きる私達は、皆がそれぞれに目標があり、苦勞があり、もがいています。私心(欲)を捨てる事が一番楽になると気づきました。

町長になった今も私はもがき苦しんでいます。町長とは名ばかりで、決して町長の椅子に安住することなく、町の活性化に命懸けで臨んでいます。どうしたら活性化出来るのか？これまで出会った方との繋がりを一番大切にしています。結局のところ、事業も政治も通じる所は「信頼」です。「自



分の言葉に嘘はつくまい、人を裏切るまい」その考え方が私にとって、そのままの人生訓です。だから、周囲の期待に答えようと今、必死に町づくりをしています。

【コンサートで夢を語る私(1982年)館林文化会館大ホール)】

【明和町を本当に住みやすい町にしたい！】

工業団地による地元での就業場所の確保、優良企業誘致による町の財政基盤の確立、スーパーマーケット誘致による買い物難民解消、東西ふれあいセンター開設によるコミュニティと居場所づくり、川俣駅橋上化による明和町玄関口の創設で賑わいの基盤形成、メディカルセンタービルによる医療提供体制による安心の確立、そしてこれから温泉、ビジネスホテル、コストコ、その先へとまだまだ夢は続きます。今まで住んでいた皆様も、新しく工業団地へ進出した企業の方々も、周囲の市町村の方々も、皆様が明和町に住みたいと思っただけでいい。明和町に住んでもらえる。そんな利便性と町民融和の町をつくっていきます。

そして、企業の進出で財政力があり、皆様の働く場所があり、生活に便利な買い物や食事が出来、教育も福祉も医療も充実し、犯罪が起きにくい安全安心な「オールインワンの町」を目指します。

町民の皆様に、そんな躍進を続ける郷土、明和町を誇りに思っただけであれば幸いです。

政治には休みはありません。私はまだまだ頑張ります。町のために。町民の幸せのために。「自分の言葉に嘘はつくまい、人を裏切るまい」を政治信条に歯をくいしばります。また、政治は常に先を見て攻めなければなりません。これからの明和町の目指す町づくり。皆様のご支援をお願いします。

そして、この「遠くで汽笛を聞きながら」という歌の最後は「生きてゆき

たい、遠くで汽笛を聞きながら、何もいい事がなかったこの町で」と続きます。私は、町民の皆様と「重圧から逃げずに夢を追い続け、ワクワクしながら生きてゆきたいこの町で」と思っております。

令和4年10月7日

明和町長 富塚もとすけ



オールインワンのまちづくり